

お茶高-戸山高理系女子育成連携事業

「女性研究者にインタビューしてみよう」①



この事業は両校の生徒が組んで女性研究者にインタビューし、そこで得たものをまとめ、全校、全国の理系を志す児童、生徒のみなさんに向けて発信するプロジェクトです。

ここでは生物4班1年生3名、2年生2名が令和7年7月15日、京都大学の濱崎洋子教授にオンラインを用いてインタビューした記事をご紹介します。

『濱崎先生について』

京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) の未来生命科学開拓部門の部門長を務めていらっしゃいます。

ー経歴ー

- 1995 ー 広島大学生物生産学部 卒業
- 1997 ー 筑波大学 大学院修士課程 医科学研究所 (血液内科学) 修了 (医科学修士)
- 2003 ー 京都大学大学院 医学研究科 学位取得 (医学博士)

ー受賞歴ー

- 2010 ー 第62回 日本細胞生物学会 若手最優秀発表賞
- 2011 ー 第3回 大学優秀女性研究者賞 (たちばな賞)
- 2012 ー 文部科学大臣表彰 若手科学者賞 (平成24年度)
- 2017 ー 花王科学賞
- 2024 ー 日本免疫学会女性免疫研究者賞

ー研究室 HPー

<https://hmy.cira.kyoto-u.ac.jp/>

『Q&A』

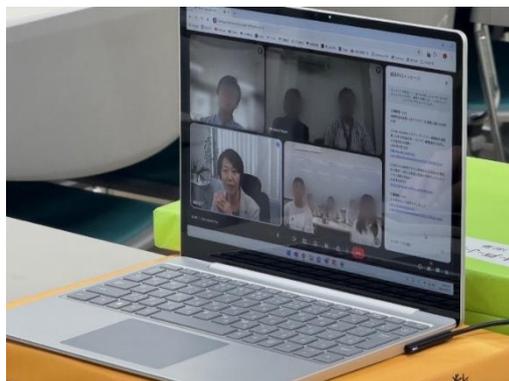
- Q. まず最初に、濱崎先生がされている研究について詳しく教えてください。
- A. 主に病原体やがんに対する免疫応答の中心となるT細胞を教育して新たにつくる胸腺という臓器についての研究を行っています。例えば、胸腺は年齢とともに縮小していき、大人になるとほとんど見えなくなるのですが、その縮小のメカニズムはわかっていません。そのメカニズムを研究し、iPS細胞を利用してもう一度胸腺を再生できないかと考えています。また、加齢による免疫の低下と胸腺の縮小との関係についても研究しています。
- Q. 先生の研究にiPS細胞をどのように活用していらっしゃるのですか？
- A. 免疫機能は老化とともに失われていってしまいます。iPS細胞はそういった無くなってしまった細胞を補う一つの手段ですね。これは、もともと胸腺を持たずに生まれてきた患者さんにも活用できると思います。あとは、基礎研究に活用しています。今までは、例えば、薬を作りたいとなったとき、マウスを使ってその薬品の効果を試していたのですが、iPS細胞を使うことで、人の細胞で効果を試すことができるようになりました。
- Q. 研究者になったきっかけを教えてください。
- A. 学生だった頃、私は研究者という職業があることすら知りませんでした。しかし、体の仕組みに興味があり、例えば何か悩み事があるときでも、私の脳が、なぜ、どんな仕組みで自分が悩んでいるのかが気になりました。何かを不思議に思い、知りたいと思うことはよくありましたが、子どもの考えつくようなことは、ほとんどの場合すでに答えがあって、勉強すれば答えは分かるということを知りました。分かったことが嬉しいという気持ちと同時に、なんだ、もう分かっているのか、という気持ちもありました。そんな経験から、自分で何かを見つけたい、という思いがだんだん大きくなってきたと思います。大学4年生くらいから本格的に研究を始め、今に至ります。分からないということが、たまらなくワクワクしますね。
- Q. 女性研究者としての苦労はありますか？
- A. 時間がどうしても限られてしまうところはありますね。でも特別な苦労というよりは、どの仕事でも男女関係なく苦労することはあると思います。むしろ好きなことを仕事にできていることがとても幸せで、好きなことをやっていくためには色々工夫して、苦労も一つ一つ克服していこうとできるんじゃないかと思います。特に最近は女性研究者にとっても手厚くなっているので、女性だからといって身構えることなく、好きならぜひやってみてほしいです！

Q. 研究を進める上で、特に重要となる姿勢や心構えは何ですか？

A. 私が大事にしていることは、まだ誰もやっていないような研究をするという姿勢です。その時に流行っている研究を選ぶと、どうしても他人の進捗が気になるし、研究の目的が「競争に勝つこと」になりがちです。そうすると、研究自体がちょっとしんどくなってきてしまいます。大事なのは「流行っている研究」をするのではなく、必要とされ、かつ他の人が大事だとまだ気づいていない、「オリジナリティのある研究」を行うことだと思います。誰かが作った人気の山に登るのではなく、自分が新たに山を作る、くらいの気持ちでやった方がきっと楽しいと思います。

Q. 今の高校生へのメッセージをおねがいします！

A. 好きなことはとことんやってみてほしいです。マイペースさや集中力を大切に、興味のあることがあれば、自分で調べて、自分の手でやってみるといいですね。勉強はあとからでもできますが、体育祭や文化祭のような学校行事は、高校生だからこそできる活動です。研究も、いろんな人と議論しながら、知恵を絞りながら進めていくことが多いです。その過程で、「どうすればこれができるか？」と考えることはとても大切ですし、みんなで協力して何かを成し遂げることは、とても良い経験になります。いろいろなことを経験しておく、その一つ一つの経験が将来につながっていきます。



↑
↑
↑ インタビュー中の様子 →→→



『感想』

- 今回、濱崎先生のお話を聞く中で、将来 iPS 細胞で胸腺を人為的に作れるようになれば、原発性免疫不全などの免疫に関わる病気に直接的な治療ができるのだと iPS 細胞による再生医療の可能性に驚きました。濱崎先生のお話は、研究の内容だけでなく、その心構えや考え方も興味深く、自分の進路を考えていく上で貴重な体験となりました。(戸山高校 1 年 T.H.)
- お話を伺い、研究者として自分の興味のあることをとことん追求していき、自分から草分け的存在になろうと努力する姿勢に深く感銘を受けました。私自身も研究者を志す一人として濱崎先生のように確固たる信念をもち、道を切り拓いていけるような研究者になりたいと思いました。(戸山高校 2 年 Y.Y.)
- 将来、大学などで再生医療について研究してみたいと思っていて、濱崎先生のことを知り、インタビューしたいと思いました。実際にインタビューしてみて、とても興味深いお話をたくさん聞くことができ、本当に貴重な経験をさせていただきました。このインタビューをもとに将来したいことができる大学をもう一度調べてみて、勉強をもっと頑張ろうと思います。(戸山高校 2 年 Y.M.)
- 女性として、また研究者としての苦勞を誰にでもあるものとして受け入れ、分からないことを喜びとして、ただ好きなことに向かって行く先生の強さに感銘を受けました。将来の目標を見据えながらも、目の前にあることに打ち込む大切さに気付きました。(お茶の水女子大学附属高等学校 1 年 W.A.)
- 今回のインタビューを通して、免疫細胞について興味を持つようになりました。特に、胸腺の再生についてのお話が興味深く、とても印象に残りました。日々の学校生活や行事でのさまざまな経験も、将来役に立つ貴重なものになるのだと感じました。お茶高では、課題研究などを通して自分の興味を深める機会があります。これからも、自分の関心のあることを大切に、学びを深めていきたいと思います。(お茶の水女子大学附属高等学校 1 年 O.R.)

ー濱崎先生、インタビューにご協力してくださりありがとうございました！ー